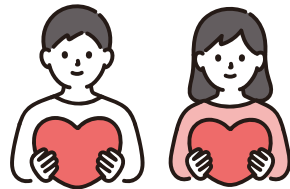


“当たり前”のすぐ隣にある、だれかの生きづらさを解消したい

「パートナーシップ制度」が始まります

私たちの周りには、性的指向や性自認の多様な方々が暮らしています。市では、多様性を認め合い、誰もがいきいきと活躍できる社会の実現を目指し、6月1日より「パートナーシップ制度」を導入します。



パートナーシップ制度とは

一方または双方が性的マイノリティであるカップルが、互いを人生のパートナーとして協力し合う関係であることを、市が公に証明（登録証等を交付）する制度です。

この制度は法律上の婚姻とは異なり、相続や親権などの法的権利・義務を発生させるものではありませんが、市営住宅への入居申し込みや病院での面会など、一部の行政サービスにおいて家族と同様の対応が可能になります。



美咲パートナーシップ制度シンボルマーク

制度は“ゴール”ではなく“スタート”

今月から始まる「パートナーシップ制度」。これは特定の誰かに特別な権利を与えるものではありません。今まで、法的な家族ではないという理由で、大切な人の手術の同意ができなかったり、一緒に暮らすための家を借りることに苦労したりしてきた方々の「家族なら当たり前に行えることができない不安」を、少しずつ解消していくための仕組みです。制度ができたことで、書類上の手続きは変わります。しかし、本当に大切なのは、制度ができた後の「まちの空気」です。



まちはどう変わっていくのか？

制度の導入によって、次のような変化が期待されています。

- 民間への広がり** 病院や不動産業、飲食店などで「パートナー」としての対応がスムーズになる。
- 企業の変化** 市内の事業所でも、福利厚生をパートナーに適用する動きが広がり、多様な人材が働きやすい環境になる。
- 安心感の醸成** 「このまちなら、自分らしく生きていける」と感じ、住み続けたいと思えるまちになる。



私たちができる「最初の一步」

「何をすればいいかわからない」という方も多いかもしれません。まずは、「知らないことを知ろうとすること」それだけで十分です。「男だから」「女だから」「家族だから」という固定観念を少し横に置いて、「その人」が何を大切にしているのかを尊重し合う。そんな小さな積み重ねが、結果として性的マイノリティの方々だけでなく、高齢者、外国人、障がいのある方など、すべての市民にとって「居心地のいいまち」をつくることにつながります。



その一言、アンコンシャス・バイアスではありませんか？



アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）は、日常にあふれていて、誰もが持っているもので、そのもの自体が問題ではありません。また、自分の過去の経験や見聞きしたことから自然に培われるものですので、そのものに良しあしはありません。

ただ、知らず知らずのうちに誰かを傷つけてしまったり、自分の可能性を狭めてしまったりすることがあるため、アンコンシャス・バイアスの存在を認識し、気付こうとすることが大切です。

例えば、

- ・「親が単身赴任中です」と聞くと、父親を思い浮かべる。
- ・交際相手を「パートナー」と呼ぶと相手を同性だと思ふ。
- ・「保育士」と聞くと、エプロン姿の女性を思い浮かべる。

意識して気付こうとする

アンコンシャス・バイアスは、無意識がゆえに気付くにくいので、「気付こうとすること」が大切です。「100人が同じでも、101人目は違うかもしれない」「過去と、今、未来とでは違うかもしれない」など、その時々に向き合うことを大切にしてみてください。

「決め付け」はしない

アンコンシャス・バイアスは、「こうあるべきだ」「普通はそうだ」といった決め付けの言動に表れやすいです。例えば、「力仕事は男性が行うべきだ」「女の子だから人形遊びが好きはなはず」など、相手や自分に対する決め付けはないだろうか？と、疑ってみてください。

アンコンシャス・バイアスに気付こうとする気持ちは、多様性を認め合う社会の実現に向けた大きな一歩となります。

少しずつ、小さなことからでもいいので「これってアンコンシャス・バイアスかな？」を合言葉に、気付く、考えてみることから始めてみましょう。



6月2日(火)~30日(火) 図書館ミニミニコーナー

「自分らしく生きたい」「誰かの力になりたい」「家族の形を理解したい」そんな思いに寄り添う本を集めました。知識を深め、対話を広げるきっかけとして手に取ってみてください。

